

熊本豪雨
2年

焼酎 被災乗り越え完成



▲ 球磨焼酎「球磨川」を詰めた一升瓶にキャップシールを張る下田文仁さん(左)＝人吉市

▶ 完成した球磨焼酎「球磨川」

人吉市の大和一酒造元「球磨川」来月発売

2020年熊本豪雨で被災した球磨焼酎の蔵元「大和一酒造元」(人吉市下林町)が、復旧後に仕込んだ新商品「球磨川」が完成し、7日から瓶詰め作業を始めた。豪雨から丸2年の7月4日に発売する。

した。「人吉球磨の自然や風土を表現。想像以上に優しい味わいに仕上がった」。青々とした球磨川をイメージした色の瓶を選んだ。製造量は一升瓶換算で3千本分。一升瓶3100円(税別)、箱入りの四合瓶1700円(同)で県内外で販売する。下田さんが豪雨災害からの経過や復旧支援に対する感謝、球磨川への思いをつづった冊子を2千部作成し、酒販店などに配る。(中村勝洋)

同社の蔵は球磨川からあふれた濁流に高さ3メートルに達した。年12月から仕込み作業を続けた。球磨川の氾濫は流域に甚大な被害を及ぼしたが「受けてきた恩恵も大きく、水や米が育まれたからこそ球磨焼酎も造られてきた」と磨焼酎も造られてきたと下田さん。感謝の思いを込めた昔ながらの製法で昨